

黒田官兵衛
と宍粟

第1回



篠ノ丸城址からの眺め

平成26年の大河ドラマが「軍師官兵衛」＝羽柴（豊臣）秀吉の名参謀・黒田官兵衛に決定したことで、姫路市など官兵衛の「地元」では盛り上がりを見せている。

ところで、この黒田官兵衛、何を隠そう宍粟ともゆかりの深い人物なのである。

江戸時代中頃に書かれた『宍粟郡守令交代記』は、天正8年

(1580) 5月、秀吉が長水城の宇野氏を攻めたとき、陣中で官兵衛が「篝火に宇野（鶴の）首見せる広瀬かな」という句を詠んだと記している。しかし、これはどうも後世の創作らしい。

宇野氏の滅亡後、播磨平定の功を認められた官兵衛は、天正8年9月に恩賞として揖東郡福井荘（姫路市）などで一万石を与えられた。江戸時代中頃に書かれた『黒田家譜』は、播磨・但馬を平定した秀吉がここで官兵衛を「山崎の城」（篠ノ丸城？）に居城させたと記している。さらに、後に非業の死を遂げる次男・熊之助が、天正11年（1583）に山崎で生まれたとする説も聞かれる。

これらが史実なら、官兵衛は天正8年に宍粟へ来たことになるのだが、揖東郡領地と山崎城主は『黒田家譜』が時期を混同したようで、残念ながら熊之助のことも確かな史料にはみえない。

では、実際に宍粟と官兵衛が関係したのはいつだろうか。确实なところ、官兵衛は天正12年（1584）7月、秀吉から「宍粟郡一職」（宍粟郡の支配権）を与えられている。『守令交代記』によると、宇野氏の滅亡後、宍粟は秀吉の腹心神子田半左衛門が支配していたという。しか



▲篠ノ丸城址

し、天正12年に神子田が失脚したため、官兵衛に宍粟が増えられたことになったものとみられる。宍粟での官兵衛の事跡は詳しくわからないが、『守令交代記』は「役人奉行、当地に居住といへり」と記しており、多忙な本人に代わり普段は代官が派遣されていたようだ。

官兵衛の宍粟支配は、天正15年（1587）7月に秀吉から九州の豊前（福岡・大分県）で六郡を与えられて、わずか3年で終わりを告げる。しかし、確認される中で宍粟は官兵衛にとり故郷播磨で得た最後の領地となる黒田氏にとって、飛躍への大きな足がかりとなった土地だったと言えるだろう。

宍粟市歴史資料館 三木 善文

おいでよ 図書館へ



宍粟市立図書館 ☎62-4620
山崎町鹿沢 81

本の予約・リクエストについて

読みたい本が貸出中のときには、その本の予約ができます。また、図書館や図書室にない本が読みたいときには、他の図書館から取り寄せたり、購入の検討をします。予約・リクエストはひとり5冊まで。



今月のオススメ

僕ら地域おこし協力隊
未来と社会に夢をもつ

著者 / 矢崎 栄司

都会を離れて過疎地に3年間の期限で移住し、自分達の手で地域の活性化を実現させようという日々奮闘している人々がいます。その葛藤と感動の活動記録です。



津波、噴火：
日本列島地震の2000年史

著者 / 保立 道久・成田 龍一

災害に強い社会にしていくために、過去の地震から何を学ぶべきか、複合被災をもたらす現代の状況にどう対処していくべきか、歴史学者たちが語ります。

図書館カレンダー

○ 休館日
【開館時間】 午前10時～午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				
	1	2	3	4		
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

編集後記

先月、ビデオカメラを持って「しろうチャンネル」の取材に出かけました。取材先では子どもたちが楽しそうに遊んでいる様子を撮影したのですが…。なかなか思った様に撮るのは難しく、普段テレビの画面を通して何気に見ている映像がとても見やすく撮影されていることがわかり、もっと勉強しなければと思いました。

さて、4月に入り季節はすっかり春となりました。入学や就職などで新しい生活をスタートさせた方も多いのではないのでしょうか。石も新しい事に挑戦しつつ、みなさんに見やすく喜ばれる「しろうチャンネル」「広報しろう」を作るお手伝いが出来ればと思います。今年度もよろしくお願いたします。

石